

令和5年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 一粒園認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	やっとコロナが5類に移行し、マスクを外して登園してくる子どもが大半となった。元々、園の基盤であるモンテッソーリ教育は縦割りで活動することが多かったが、コロナ禍の間はクラス単位での活動に終始していたので、やっと交流できる機会が増えてきた。ただ、まだまだ小さな単位での活動が多く、全体的（全学年）な縦割りの係りは頻繁ではない。機会を増やす中で、子どもたちも少しずつ慣れていっている段階のように思う。クラス単位で、同年齢の子どもたちだけの活動が多かったため、異年齢の子どもから学べる事が出来ず、色々な面で体験不足であると感じる。
目標	当園の特徴ともいえる縦割りでの活動（モンテッソーリ教育・設定保育等）を以前のように、日常的かつ自然の流れの中で子どもたちが気負うことなく参加できるような状態に戻していきたいと思う。その上で、年齢の高い子どもは低い子どもと関わりを深める中で思いやり、他者と自分の関係性に気づき自分を高めたりできるようになってほしいと思う。また、コロナ禍で外で遊ぶことが減っていたため、家族以外の友だちと関りが持てず、本来ならば、子ども同士で学び合ったりできていたことが学べていなかった分、縦割り保育で価値観や立場が異なる相手でも相手の気持ちを尊重したり、受け止め、また自分も自分を表現する中でお互いに心が通い合うようなコミュニケーション能力などを身につけて欲しいと思う。
目標達成に向けた具体的な取組内容	モンテッソーリ教育の中だけでなくその他の設定保育の場面や食事等の日常的な活動の場面でも、クラスの壁を取り除き、子どもたちがどの部屋も自然に行き来できる雰囲気や教具・教材の配置を考え、保育者自身もクラス意識を取り除き、どの子どもについても発達段階を把握して、誰が自分のもとに来ても対応できるよう職員同士の共通理解を深めていきたいと思う。 4、5歳児は、少しずつですが縦割りで活動してきているので、その集団に3歳児等を入れるのに、おやつの時に各テーブルに3歳児を招待するなど、出来るところから始めている。ただ、3歳児の中には少し抵抗を示す子どももいるので、決して無理強いすることなく根気よく誘いかけていたり、他児がしている様子を見せて安心感を与えるなどからスタートしている。このような取り組みが自然な形で出来るように、保育者は前に出すぎず見守り、子どもたちの会話を聴きながらお互いの心情を考えたり、伝え合ったりするミーティング的な時間も取るようにして、子どもたちからの気づきを大切にしている。
成果	4、5歳児の交流は順調に行えるようになってきた。おやつや降園前の時間を利用して3歳児も一緒に活動することが多くなってきている。毎週金曜日は、全クラスで触れ合い遊びなどを楽しむ時間を持つようにしている。1、2歳児は最初はなかなか慣れない様子で不安そうにする姿も見られ、保育者が仲立ちとなって年長児らに関わり方などを見せていった結果、最近ではどの子どもにも笑顔が見られるようになってきた。モンテッソーリ教育の自由作業の時間も、以前はクラス意識が子どもにも保育者にも見られていたが、自由に行き来できる環境を整えていくことでクラスに関係なく自由作業を楽しみ、教え合う姿も出てくるようになったり、年上の子どもたちのしていることをよく観ていて、同じように取り組んでみようとしたりする姿もあった。4、5歳児においては、クラスの中で話し合う機会を増やし、お互いに一方的な関わりではなく、相手の気持ちを考えていく時間を取るようにした。その結果、4歳児は5歳児の考えや行動を模倣する子どもも出てきている。5歳児の中には強い口調の言葉遣いでは、年下の子どもたちが怖がったり、伝わらなかつたりすることに気づき、意識して優しい口調で話そうとする姿も見られるようになった。そんな経験をする中で、年下の子どもも自分なりに相手を思いやり、お手伝いをしたりする姿も出てくるようになってきている。
評価	コロナ禍で実施できなかった縦割りでのモンテッソーリ教育を行うべく、さまざまな工夫がなされている。おやつや触れ合い遊びなど、無理なく導入されているといえる。子どもたちの様子も、年下の子どもたちを気遣う姿がみられ、効果があらわれてきている。改めて見て学ぶことの重要さを感じるとともに、異年齢での関係性の持ち方に子どもたちの育ちを感じる。クラスの壁を超えて教え合ったりして、どのように小さい子をリードしたら良いかが徐々に身についてきているように思われる。特に5歳児にとって、自分の関わりで小さい子どもたちの様子が変わることを見ることで、客観的に自分のありようを捉えられるようになったことが大きな成果であるといえよう。活動を振り返るミーティングの導入は意義あるものであり、話し合う中でさらに客観性を身につけられるようになってきている。小学校へ進学する子どもたちにとって、貴重な体験を積み上げていると思われる。これからもモンテッソーリ教育の理念を大切に、子どもたちが触れ合いを通して大きく育つよう保育していただきたい。